

北海道浮魚ニュース

平成 28 (2016) 年度 3 号

2016 年 5 月 27 日

北海道立総合研究機構水産研究本部 函館水産試験場

ホームページ : <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎日本海スルメイカ北上期調査結果

5 月 21 日～ 25 日の期間、津軽海峡周辺から秋田県沖にかけての日本海で、函館水産試験場調査船金星丸 (151 トン、イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備) により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・調査海域の平均分布密度は昨年を下回り 2001 年以降では低い値。
- ・魚体サイズは過去 5 年平均より大きく、昨年と同程度かやや大型。

1. 水温分布 (図 1)

漁獲調査点 5 地点のうち調査を行った 4 地点の表面水温は 13.9 ～ 17.0 °C (昨年 5 地点 9.2 ～ 15.8 °C)、水深 50 m の水温は 8.7 ～ 11.9 °C (昨年 5 地点 3.2 ～ 11.0 °C) の範囲にあり、表面、50m 水深いずれも、4 地点全てで昨年を上回りました。

スルメイカの分布の目安となる水深 50m の水温分布では、昨年は調査海域の北側及び

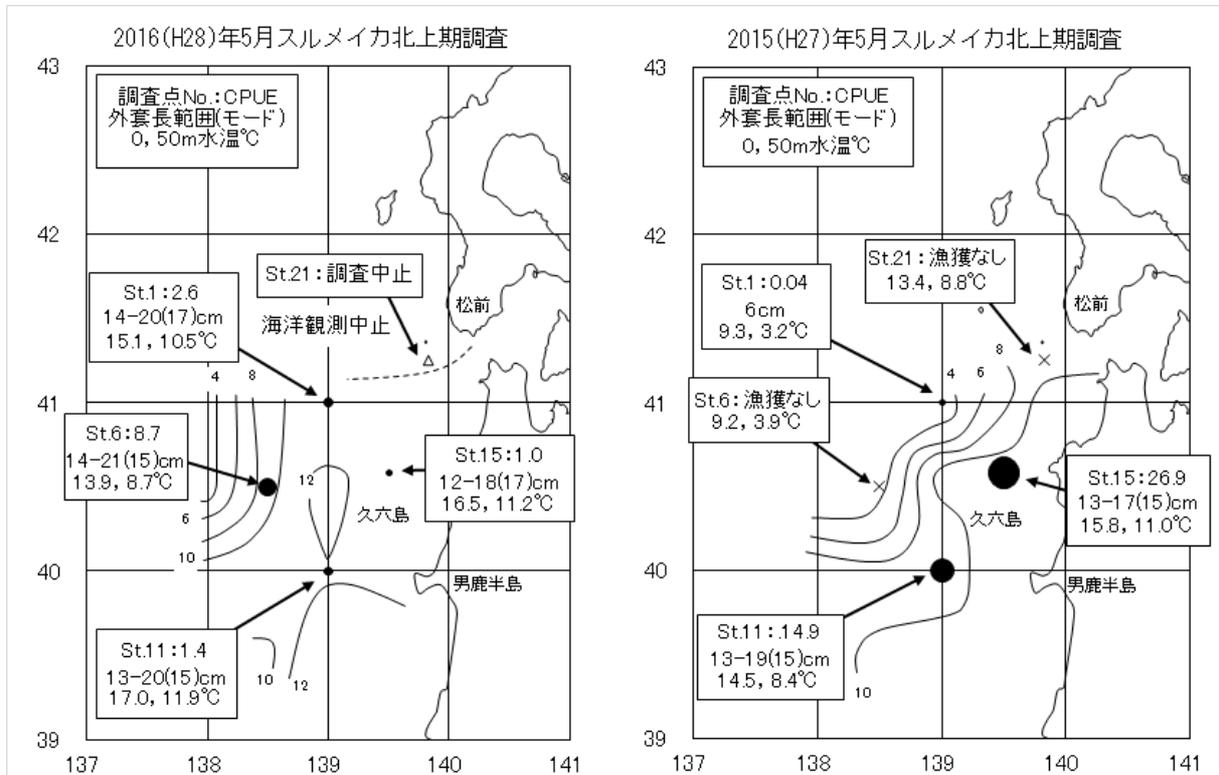


図 1 スルメイカ漁獲調査結果 (2015 年との比較)。●は漁獲調査点で大きさは CPUE に比例。

×は漁獲なし。△は漁獲調査中止。等温線は水深 50m の水温 (°C)。

沖側に広くみられた6℃以下の低水温の海域は、今年は北緯40度20分以上、東経138度20分以西の沖合遠くのみに見られました。調査海域のほとんどは10℃以上の比較的高い水温となっており、秋田県男鹿半島以南の沿岸を中心に、12℃から13℃を越える海域もみられました。

2. 分布密度 (図1、図2)

漁獲調査点5地点のうち、荒天のため調査を実施できなかった松前沖 St.21 を除く4調査点のCPUE (2連式イカ釣機1台1時間当たり漁獲尾数) は1.0～8.7 (昨年0～26.9) の範囲にありま

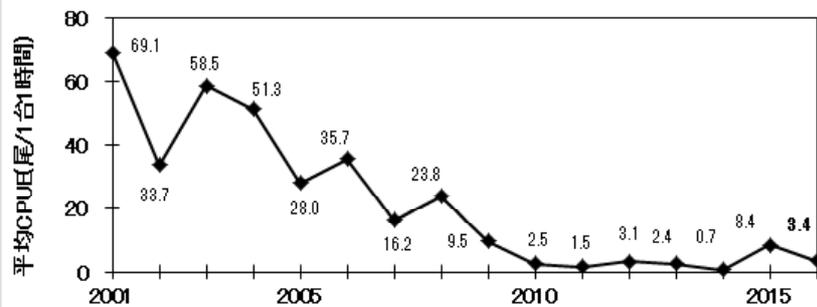


図2 松前以南5地点の平均CPUEの経年変化 (2001年以降)

した。各調査点の分布密度は、沖側2点 (津軽半島西方沖 St.1、青森県久六島西方沖 St.6) が沿岸側2点 (男鹿半島沖 St.11、久六島近海 St.15) よりも高くなっており、最もCPUEが高かったのは青森県久六島西方沖の St.6 (8.7) でした。平均CPUEは3.4で前年 (全5調査点 8.4、同一4調査点 10.4) を下回り、過去5年平均 (3.2) は上回ったものの調査が現在の形となった2001年以降では低い値に止まりました。

なお、水産総合研究センターによる長期漁況予報では、2016年5～7月の日本海全体の来遊量は過去5年平均を下回り、不漁であった昨年並みと予想されています (浮魚ニュース2016年度2号)。

3. スルメイカの大きさ (図3)

調査海域全体のスルメイカ外套長 (胴長) の範囲は12～21cm (昨年6～19cm) でした。最も多く漁獲されたイカの大きさ (モード) は15cm (昨年15cm、過去5年平均14cm) で、全体的な魚体サイズは過去5年平均より大きく、昨年と同程度かやや大型となっていました。

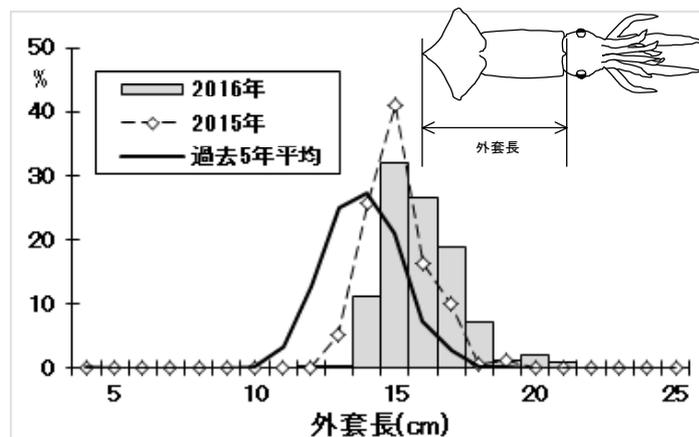


図3 調査海域全体の外套長組成

4. 標識放流 (図4)

調査期間中、青森県久六島西方沖の St.6 で117尾の標識放流を行いました。放流を行ったイカは、「ハコ」の文字と「00」から「02」までの2桁の数字が黒い文字で記入されたピンク色のスパゲティ型タグが、ヒレの部分に打られています。

標識のついたスルメイカを再捕された方は最寄りの水産試験場まで報告いただきますよう、よろしくお願いいたします。

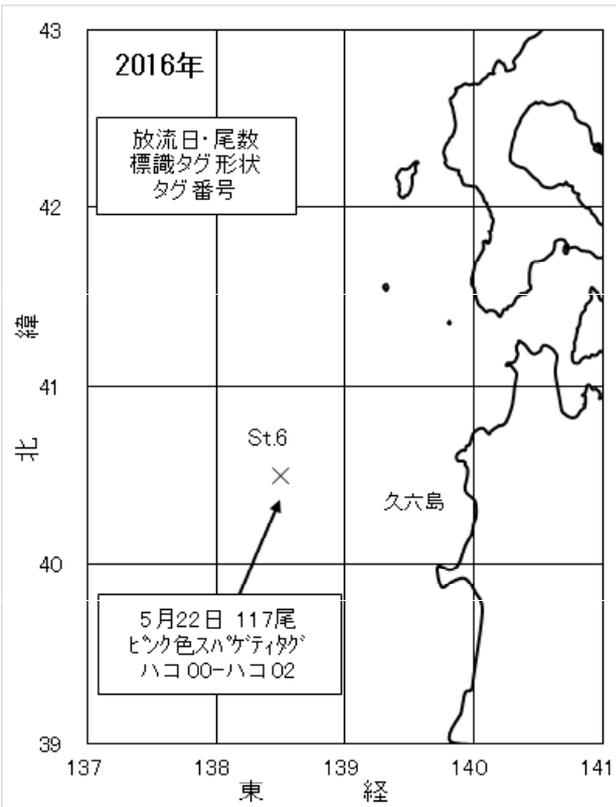


図4 標識放流の位置・放流日・尾数及び標識の形状と番号

(函館水産試験場調査研究部、TEL : 0138-83-2893、FAX : 0138-83-2849)